

## 持続的・海域利用ワーキンググループの設置について

### 趣旨

他海域に比べて大きく立ち遅れている石西礁湖及び周辺海域での持続的・海域利用の実現に向けた戦略立案とその社会実装に向けた具体的な取り組みの核となる様々な関連機関・団体からなる横断的・機動的な活動組織として、持続的・海域利用ワーキンググループ（WG）を石西礁湖自然再生協議会に設置する。同WGの当面の主要な取り組みとして、「石西礁湖自然再生全体構想行動計画2024-2028」における重点項目の一つである「石西礁湖における持続可能な観光利用ガイドラインの作成と活用」に向けた既存事例の情報収集ならびに石西礁湖の現状整理と課題抽出を行う。それらに基づいて、ステークホルダーとの調整・協議を経てガイドラインを作成するとともに、その活用方法の検討を行う。

### 背景

マリンレジャーをベースとした自然体験型観光が注目される一方で、オーバーツーリズムに伴う過剰な利用や海域利用者の不適切な利用によるサンゴ礁生態系への影響が深刻化している。またコロナ禍終息とインバウンドの増大により来島者が増加傾向にあり、それに対応する形で、マリンレジャー業者（ツアー参加者含む）と一般観光遊泳者の八重山管内における海難事故も近年増加傾向にある。そのようなことから、環境面と安全面に十分配慮した持続的・海域利用の実現に向けた仕組み作りを急ぐ必要があり、そのための主要なツールの一つとして、「持続可能な海域利用ガイドライン（仮称）」の作成が求められている。

石西礁湖及び周辺海域を対象とした持続的・海域利用のための仕組みづくりの検討にあたっては、関連する様々な組織・団体が横断的に参加する形での検討が不可欠となる。例えば、石垣市においては公安委員会に申請された届出事業者数が県内トップクラスであるが、多くの事業者の利用海域は石垣市管内海域にとどまらず竹富町管轄海域にも広がっている。そのようなことから、石垣市、竹富町両自治体に加え、多様なステークホルダーで構成された団体・組織からなる標記のWGを設立し、そこでの広範な議論を経る形で上記のガイドラインの作成とその活用方法の検討を行う必要がある。

### 代表者

- ・石垣市企画部観光文化スポーツ局観光文化課課長 西銘 基恭
- ・竹富町自然観光課課長 通事 太一郎

### 主要構成要員（予定）

- ・環境省（沖縄奄美自然環境事務所）
- ・沖縄県（環境部自然保護課）
- ・石垣市（観光文化課、環境課）
- ・竹富町（自然観光課）
- ・八重山ダイビング協会YDA
- ・幻の島連絡協議会
- ・竹富町ダイビング組合
- ・八重山SUP協会YSA
- ・石垣島アウトフィッターユニオンIUU

- ・石垣海上保安部
- ・八重山警察署
- ・石垣市消防本部
- ・漁業関係者
- ・八重山ビジターズビューローYVB
- ・石垣市観光交流協会
- ・竹富町観光協会
- ・竹富島地域自然資産財団
- ・沖縄県環境科学センター（石西礁湖自然再生協議会事務局補助）

※協議内容に基づき適宜ステークホルダーの招集・ヒアリング・意見交換等を行う

#### 事務局

- ・事務局長：和泉 航平（石西礁湖自然再生協議会委員）
- ・事務局メンバー：平尾一也（八重山ダイビング協会環境対策委員長）
- ・ 同 ：前田一樹（幻の島連絡協議会事務局長）
- ・サポートメンバー：1, 2名

#### ガイドライン体系

- ① 海の安全→ex. 海保、警察、消防、YDA、竹富ダイブ組合
- ② 地域配慮→ex. 石垣市、竹富町、YVB、交流協会、竹富町観光協会、YDA、竹富ダイブ組合
- ③ 自然配慮→ex. 環境省、YDA、IUU、YSA、竹富ダイブ組合、漁協

①～③に基づき市（町）民、観光客、観光事業者のガイドライン作成および普及啓発を目指す。

#### 今後のスケジュール

3月24日（月）18:00から第1回WGを開催予定（詳細は後日協議会MLにて周知予定）